

報告その3 不登校の『その先』 **きみの笑顔が見たい**

NPO 法人梶原あそび基地 Largo (ラゴ) フリースクール代表水澤麻美さん) 開設イベント4月22日(日) in 建長寺 第3部の鼎談をお伝えします。3回目の報告は沢雄司さん (Largo スーパーバイザー、かまくら心理室主宰 臨床心理士) から記録を頂き掲載いたします。有難うございます。以上 Largo 開設イベント報告終了です。

中邑賢龍さん V.S. 松尾崇市長さん in 建長寺

<滝田> 中邑先生のお話を伺いながら三人でお話を深めたいと思っています。最初に松尾市長、感想をお聞かせください。

<松尾市長> 改めまして、鎌倉市長の松尾です。今日はよろしくお願ひ致します。先日、中邑先生が実践されているロケットに見学に行かしていただきました。するとロケットで子どもたちがイキイキと研究している姿をみて、楽しいんだなと感じました。ロケットにいる生徒さんはそれぞれに勝



手なことやっているんですよね。だけれど、中邑先生がそれを全部包んでいるというか、キチンと一人一人の思いを引き出しながら進めているんですね。

鎌倉の中でも今130名以上の不登校の小中学生がいます。これは、一人一人課題はそれぞれなんだろうなと思うんですけど、ただ学びの機会というのは確実に学校には失われている。どこで学んでいるのか、学べていないのか。ここをしっかりと把握して、子どもたちが不登校の中で生き生きと、一人一人がしっかりと輝けるといふ鎌倉の町でありたいなと思っています。ですから、滝田先生や中邑先生ともこれからご相談をさせていただきながら取り組んでいきたいなと思っていますところでは。

<滝田> 中邑先生はなぜこういうプロジェクトを始められたのですか。

<中邑先生> 実は私は社会的にうまく適応できなかった人たちと、一緒に働こうということをやっているんです。元ホームレスだとか、生活保護を受けていたとか前科があるとか、そういう人たちと一緒に仕事をしているんです。その人たちと話をして思うのが、「俺たち子どもの頃こうだったんだよ」という、その話が本当に辛い。小さな頃にもっと何か違ったものがあれば俺たち変わっていたかもしれないという、そういう話がベースにあります。

このままだと今の教育を変えないと、この人たちのような辛さが同じように生まれていく。ただ僕は教育を変えるというのは、学校を変えようとは思っていないんです。それはなかなか変えられない。法律で決まってるし。学校の先生たちも一生懸命されてるのもよくわかるし、教育委員会の先生方も一生懸命されているのもわかるし。

やっぱり社会の雰囲気を作らなければいけないなと感じたわけです。一番雰囲気を作るのが手っ取り早いのは大学です。大学で思い切ったことをやってみようと考えてた時に、日本財団さんと色々とお話しする機会があって、突き抜けて走ってるという、そういうところあります。

ハイレベルな学びなんて僕が作るものじゃない。突き放しなんですよ。だけどハイレベルな学びをしたかったら、俺たちはできるだけそれを応援をするよっていう、それだけなんですよね。押し付けられるのが嫌いな子なんだから、自分らがやれよと。自分でできるようにしてあげよう。それが僕のスタンスなんです。

〈滝田〉 中邑先生が話された、学校の「お休み券」を皆が持つことには？

〈松尾市長〉 具体的な政策になると、私がやるとか言うのは難しいですが、方向性としてはとっても面白いです。そこに行きつくまでもうちょっと深い部分で、教育委員会や市と地域で不登校に取り組んでいる人たちと話し合いたいですね。鎌倉の中ではきちっとした議論をしたい。子どものためにとってみんな言っているけれど、それぞれに捕らわれている部分があるから、そこをほぐしていかなきゃいけないかなと思います。

〈中邑先生〉 お休み券というのは夢ではないと思っていますよ。これをどういう形で運用すればよいかっていうのを色々考えている。その中で不登校というのはこれを突破する一つのカギになる。なぜかという、学校に行っていない子どもたちの教育については



校長先生の裁量というのはかなり与えられている。だから、この部分で校長先生としっかり、話し合っていけば相当面白い教育ができると思っています。

〈松尾市長〉 AIとかロボットが多く使われる社会はすぐやってきます。行政の決まったマニュアルに沿ったことをやっていく手続きなどの、単純な作業は作業量が多いんです。行政もおそらく5年もたたないうちに今やっているかなり多くの仕事をロボットに置き換えられてるでしょう。そのときにやはり、自分が大人になったときにそこをしっかりと力強く生き抜ける力、中邑先生の話されたいろんな方法でお金を稼ぐ方法を子どもの頃から考えていく。そういう学びが大きな差になってくると感じます。

〈滝田〉 子どもたちの笑顔が溢れる市長のイメージはどうですか？

〈松尾市長〉 Largo がふかふかから出発するわけですが、ふかふかさんが目指してる所は、すごく私は共感できる部分があります。商店街の人たちもみんな協力して地域の子どもたちを見守り、ここで子どもの居場所を作っている。学校だけとか、家庭だけっていうことではなくて、地域全体で子どもが笑顔になれる、そういう方向にみんな協力していくことが非常に重要だと思います。

〈中邑先生〉 地域というなら、大工さんであるとか、調理師さんであるとか地域のプロフェッショナルと教育の中で一緒になって、主要五教科をぶっ倒すくらいの、教育の中に流れが出てくるべきだと思っていますよ。これから主要五教科って全部コンピューターがやってくれるんですよ。そうなったときに、本来教

育には、人間が生きるためにこう五感を研ぎ澄ますようなものがあっていいように思います。国社数理英は理論的っていうか抽象的で大事なんですけど。全ての子どもがそれが入るわけじゃない。入らないからダメな社会にしていくことがダメですよ。本当に五教科だけで評価されて馬鹿だと言われて、人生もうおしまいなんて思ってる。こういう社会にしたいくないんですよ。

〈滝田〉 今日の対談を振り返っていかがでしたでしょうか。

〈松尾市長〉 すごく今日は本質のところ、先生がお話をしていただいているんだというふうに思いながら話を聞いてました。これからのやっぱり私達が子どもたちが本当の笑顔になれるっていう。

その環境づくりっていうのを今真剣に考えて、行動を起こさなかったら本当にこの先日本が全く立ちゆかなくなるという危機感がものすごくありますし、それを共有できたんではないかなというふうに思っています。今日はありがとうございました。

〈中邑先生〉 不登校だということをネガティブに捉えるのではなくて、未来に向かっての橋がこっちだけかかっている。というふうに考えて、やっぱり覚悟を決めてね。もうみんなで力を合わせて、前に向かって歩きましょう。

制度があるいは学習指導要領の制度で合っていないところがある。間違ってる制度にあわせて、子どもを苦しめるよりは、私たちが新しい制度を作っていくからねって、そっちの方に向かっていた方が僕は建設的であると前向きであるというふうに思っています。また何かあれば、私もお手伝いします。



【感想】 つながる鎌倉へ 星山麻木さん 明星大学教育学部教育学科教授

鎌倉に生まれ育ち、35年支援をしています。私が大事にしているのは多様性の尊重と受容、ダイバーシティ(diversity)学び方の多様性です。一律の学び方から多様な学び方へ、今日のお話も共感するところがたくさんありました。そのためには一人では難しいのでつながることです。私はドラえもののポケット、いろんなアイデア・工夫が必要と思いついて進めています。今日も新たなプロジェクト Largo がスタートします。ピンチはチャンスと思っていますので、親も子どもも一人にならないで鎌倉という地で一緒に進めていきましょう。最後に学校へのお願いです。先生方も忙しく一生懸命やっているのですから、学校を開いて頂いて地域のいろんな人たちと手を携えていきましょう。(文責滝田衛)



コラム風 大人げない大人 自戒を込めて (滝田衛)

ロシアでのサッカーワールドカップが注目です。もちろん朝韓&中朝会談、そして朝米会談・怪談?も見守りたいです。“怪談”は揶揄ではありません、ご容赦下さい。選ばれ方がどうあろうと金正恩もトランプも「支配者」の姿を感じ、大言壮語の“経済の物差し”と自分第1主義が見えてしまう僕がいます。我が国の動きも心配。兵器や原発輸出そしてカジノ含むIRで経済成長? 危険極まりないですね。教育・福祉&地域で人が幸せになる社会、21世紀を期待します。

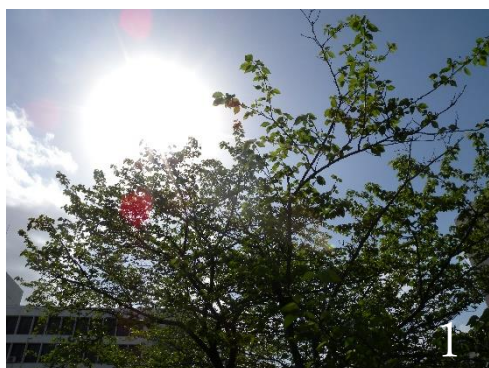
教育に目を転じれば、中学校3年生女子自死(2016年10月6日)に関するいじめ被害事実隠ぺいを神戸市教育委員会と学校関係者(事実を把握しながら…)

がしていた、言語道断です。女子の人権、いじめ防止や調査検証へのトリプル冒流です。どうも森友加計問題以来、世の中は忖度と「わかりません」「やっていません」と“高等教育優秀”と言われる人が隠ぺい・改ざん・ウソ偽りが王道を闊歩…。僕たちが昨年開いた《いじめ・不登校解決三浦半島市民サミット》の結論「いじめ・不登校は大人の問題」、「いじめる人に寄り添い、不登校とよばない」を再度理解深化したいです。 ※8月にはサミット記録集を発行します。

さて3地区応援団会議拡大の一方で相互関係の混乱が聞こえます。子ども若者の未来を描く事業は確実に広がり交流を通し相互理解を期待！です。(滝田衛)

それぞれの風 紙上写真展 神奈川歯科大にて 川辺悟史さん

「僕は写真を感じたままに撮っているので見て下さる方に何か伝えられたら嬉しいです」と歯科大学5年生の川辺さん。趣味は写真。自然を被写体を選び、身近な風景を気ままに撮り続けています。



- 1 : 木漏れ日
- 2 : ジャカランダ
- 3 : ジャカランダ校舎
- 4 : 紫陽花と碑
- 5 : 紫陽花

○切手寄付を頂きました。田中幸子さん、ありがとうございました。切手は1円～130円、印紙も含め計277枚。金額合計 17958円 でした。大切にに使わせていただきます。

○**ゆずり葉の会:家族互助会**(橋本由美子さん)が24日(日)12人により逗子でスタートしました。ひきこもり発信プロジェクト(新舩秀浩さん)をサポートする家族会です。ご期待ください。

7月予定 ○1日(日)午後2時～応援団本部会議・鎌倉応援団会議 in 研究所 ○8日(日)午後2時～横須賀応援団会議・マジスティック&リトルエジソン:横須賀市民サポート活動センター ○22(日)午後1時～逗子応援団会議・ひきこもり当事者プロジェクト、ゆずり葉の会:逗子市民交流センター ○23日(月)午後7時～横須賀市支援教育推進委員会 ○26日(木)午後2時～秦野市南が丘小学校講演会「幸せな学校づくりへ(仮)」 ◎Largo: 3日(火)、7日(土) ◎鎌倉市相談センター4日(水)、6(金)深沢小、10日(火)大船小、13日(金)富士塚小、19日(木)、20日(金)、24日(火)、27日(金)、30日(火) ◎相談9(月)、11(水)、12日(火) 【発行編集:滝田衛】携帯:09072124055

●研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/> メール: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
 ●応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>